

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391400260		
法人名	医療法人 悠山会		
事業所名	ファミリア神の倉		
所在地	名古屋市区緑区赤松504		
自己評価作成日	令和 元年11月20日	評価結果市町村受理日	令和 2年 3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JievsvoCd=2391400260-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市区緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 2年 1月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ラジオ体操や塗り絵等日課として取り組んでいます。外出レクも企画をたて出掛けています。家庭的な雰囲気の中安心、安全にすごしていただけるようにその方々に寄り添ったケアを進めています。グループホームのよさを活かした生活支援を行いご利用者様のペースに合わせた声掛けをし、出来る限り残存機能も活かせるよう自立支援を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

4月に着任した新管理者は、法人内のグループホームの管理者として経験豊富であり、当ホームに2年間在籍し、利用者・家族・職員とは馴染みの関係である。管理者交代による不安はなく、管理者の性格もあり、明るく何でも相談しやすく、利用者・家族・職員からは全幅の信頼を得ている。
 新管理者は「終の棲家であり、安心して過ごす環境整備」に着手した。職員と共に「利用者本位」を追求し、「利用者目線」を心がけ、利用者・職員の関わりを重視した環境作りである。支援の方向を定めるために、ホームのモットーである、「楽しく・ゆったり・のんびりと」を継続して掲げている。
 スピーチロックに陥ることもあるが、その場で職員同士が注意しあっている。家族からは、「職員が皆、元気でやさしい」「家庭的な雰囲気」「訪問するたびに様子を伝えてくれる」等の意見がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく今までと変わらない穏やかな暮らしをモットーに理念を事務所に掲示し共有し実践につなげている。	理念「その人らしく今までと変わらない穏やかな暮らし」を事務所内に掲示し、理念に基づいた支援ができるように意識づけをしている。ミーティングで利用者の検討を行う際、振り返りを行い、支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常では散歩やコンビニでの買い物の際挨拶程度。施設行事では案内を配り参加の呼びかけをしたり、地域ボウの交流も図っている。	「子供110番の家」の委託場所であり、中学生の職場体験の受け入れがある。散歩では地域住民と挨拶を交わし、近隣の喫茶店とは馴染みの関係がある。ホームの夏祭りには、ポスティングや案内を手渡している。	ホームの行事を、継続して地域に呼び掛けてほしい。認知症のケアや関わりなどを地域に向けて情報発信し、ホームの認知の拡大に臨まれることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事や職場体験等でご利用者様に関わって頂くことで認知症に対する理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の第3水曜日に開催。事業所報告をしている。意見交換の場を設けて相談支援やアドバイスも頂いている。	運営推進会議には、地域包括支援センター・家族・後見人・職員が参加し、年6回開催している。ホームからの報告に続き、参加者の意見交換を行い、出た意見はサービス向上に活かしている。	知見者・地域に参加を呼びかけ、会議内容の充実を図り、「目標達成計画」の進捗状況の評価や、参加者からの多くの意見の出る会議運営を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	更新手続きの際に入居相談や助言を頂いたり、不明な点があればその都度相談するようにしている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が出席し、生活保護受給者の関係で区の保護係と連携を行い、相談・助言を得ている。市の研修に積極的に参加し、ホームの運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者の安全確保のため玄関施錠はおこなっている。また身体拘束マニュアルに基づき拘束のないケアをめざして勉強会を実施し理解周知に取り組んでいる。	「身体拘束ゼロ」を掲げて取り組んでいる。法人研修やホームの勉強会を行い、管理者・職員の意識は高い。玄関は安全のための施錠はあるが、エレベーターやホーム内は自由に行き来できるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング、入社時のオリエンテーションで意識向上に努めている。言葉遣いにも配慮し職員同士声掛けし注意しながら虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個別に学ぶ職員もいる。勉強会や会議の場を通して適宜話し合いの環境作りをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や不明な点に関して説明できるようにしている。ケアマネや事業所を通していつでも対応できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望に対し会議等で話し合い運営に反映させている。ブログや毎月の通信、来所の際など近々の情報を共有している。	職員全員が支援経過記録を共有し、利用者の状況を把握し、誰もが家族の来訪時に近況を伝えることができる。聞き取った家族の意見・要望は、記録し共有している。ブログや「神の倉通信」で情報を発信をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な個別面談や合同会議にて意見や提案を取り上げて反映している。	会議で意見を述べる機会があり、管理者が現場におり、「直接意見が言い易い」との声がある。提案には、「一度やってみて」と自主性を尊重し、職員が意見を出し合って評価する体制があり、良好な関係が窺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に働き甲斐のある職場づくりを目指し、職員が気軽に相談等ができるように代表者や管理者との連携を図れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の勉強会や事業所の勉強会、個々の外部研修を受ける機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内勉強会や合同旅行への参加や他事業者の訪問等にて意見交換しサービスの質を向上させていけるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時はサマリーの情報をもとに声掛け傾聴し信頼管家をつくり、日々の行動や表情からも読み取り話しやすい雰囲気作りを心掛けながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所時や電話での相談援助、職員間情報を共有して家族との信頼関係に対応出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者やご家族の意向を聞くと共に、一つずつの行動を見極め対応している。必要に応じて、他サービス形態の事業所を提案する場合もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で役割をもっていただいたり、出来ることがあれば職員と一緒に作業をして頂いている。またレクや水分補給をともに行っている。ご利用者様と楽しんだり教わったりすることで、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の折、ご利用者様の状態報告を行っている。急用の際は直接連絡、相談させて頂いている。ご利用者、ご家族共に双方の事情を考慮した上でよりよい関係が築ける様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の方が気軽に来所していただけるよう、雰囲気作りを心掛けている。	友人が訪ねて来ている。家族協力での墓参りや外出があり、正月に自宅に外泊する利用者もいる。電話の取り次ぎなど、関係継続を大切に支援している。医師の許可の下、飲酒・喫煙もできるが、現在はしない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格上、合う合わないがあるが、なるべく一緒にいえるよう援助し関わり合いが保持できる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば対応している。、また、現状を報告して下さる家族もみえる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の思いや意向を把握しやすいよう、担当を付ける等の配慮をしている。言葉に表現できない方には表情やゼスチャーでコミュニケーションをとり把握に努めて対応している。	利用者の思いを把握するため、利用者に寄り添い、コミュニケーションを大切にしている。無口な利用者とは話すときは、表情などから察するように努めている。「笑顔のメッセージを受けると嬉しい」との職員の声がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時に、これまでの生活歴やサービスシートに至るまでの経緯等を伺い、フェイスシートにまとめ共有することで把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日申し送りや介護日誌で情報を共有して把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族に意見を聞き会議を活用して話し合いの場を設け介護計画を作成している。意見が言えるような環境づくりを心掛けている。	利用者・家族の思いを把握し、介護計画を作成している。管理者が週1回モニタリングを行い、1ヶ月毎に評価をし、カンファレンスで職員は共有している。6ヶ月毎や状況変化時にサービス担当者会議を開催している。	利用者・家族の意向は把握できているが、達成度が分かりづらい。その人らしさ(個別ケア)の出た、達成度が分かりやすい具体的な介護計画の作成を望む。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や経過記録にて情報共有に努めて、カンファレンス等で意見を出し合い見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の状態やご家族様の状況にあわせ、日々の健康管理や訪問診療等の法人内の各事業所の支援により、多機能的に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	状況に合わせて、地域行事に参加したり、ボランティアや消防訓練には消防署の協力を得ることで社会との繋がりがもてるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の訪問診療があり病状に応じ随時24時間対応している。希望される医療に受診の場合も紹介状を依頼し受診している。	利用者全員が協力医をかかりつけ医として月2回の往診、週1回の訪問看護師の健康チェックを受けている。法人の医療連携が一元化され、家族の安心に込めている。専門医への受診は、家族対応が基本である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康管理や状態について看護師に伝え情報の共有・把握に努め、異常があった際は適切な受診や処置等依頼・相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療連携にて状況把握に努め、早期退院に向け病院関係者との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師より病状の説明をし、ご家族やご利用者の要望を聞き入れながら看取り同意を得ている。段階的に話し合いの場を設けて方針を共有している。	医療的ケアがない場合の、看取り事例がある。医療的ケアが必要になった場合は、医師・家族・ホームと話し合い、最も適した住み替えを行っている。協力医とは24時間体制で連携を図り、職員は訪問看護師の指導を受け、安心した支援に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時の初期対応について、マニュアル作成し、医師、看護師、管理者へと連携をとり対応できるように、職員も日頃より、話し合いの場を設けて確認できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施しており、地域災害ボランティア様にも参加して頂いている。避難訓練の際評価・アドバイスをいただいている。	年2回、日中・夜間想定で防災訓練を実施し、1回は消防署立ち合いで、通報・初期消防訓練を行い、避難訓練はシミュレーションで確認している。地域の防災ボランティアの参加があり、家具固定などの教授がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活リズムを大切にしており、日々の関わりの中で個々に合わせたコミュニケーションを大切にしている。また、プライバシーの保護には十分配慮し、馴れ合いの中で生じる言葉遣いに注意して対応している。	利用者の呼称は、苗字に「さん付け」を行い、馴れ馴れしい言葉にならないように努めている。居室はノックして、言葉を掛けてから入るようにしている。個人情報の取り扱いには、十分な配慮がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を伝えやすい雰囲気作りを心がけ、出来る限り自己決定が出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分を考慮して生活のリズムに合わせて支援している。困難な場合には、職員間で話し合い出来る限り希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し、意向もききながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いができることは職員と共に出来る範囲で行っていただいている。	法人経営の配食業者の調理された食材を、温めなどして提供している。重度化に伴い食事場面での役割りはない。年2～3回のおやつ作りは利用者も参加して行い、2ヶ月毎の喫茶レクは、利用者の楽しみである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内のキッチンの配送としており、栄養バランスやカロリー等配慮された献立である。個々の食事形態に配慮し、食事量や水分量の把握しながら、支援している。低栄養のかたは医師、看護師と相談しながら提供を考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施。週1回訪問歯科での口腔内の保清をしていただいている。ケア方法も職員に指導して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努め、個々に合わせた排泄ケア用品を検討し対応している。	重度化に伴い、排泄自立の利用者は少ない。定時誘導や利用者にあった誘導を行っている。頻尿や転倒リスクの高い利用者は、夜間ポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の早期発見と対応をしている。自然排便が困難な場合は医師の指示のもと浣腸施行。また、活動を増やしたり、飲食物の提供もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分に配慮している。入浴剤を用いる等入浴を楽しめるようにしている。	週2回の入浴機会がある。午前・午後の入浴には、湯を入れ替えている。車いす利用者はシャワー浴を行い、拘りのシャンプーや利用者の好む湯温にも対応している。季節を感じる柚子湯などの工夫もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の体調を考慮し、昼夜のリズムが作れるよう支援している。また、定期的な静養もしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋が閲覧できようにし、職員が把握できるようにしている。薬剤師からも指導を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で自然に取り組めるように支援している。得意分野や昔の生活歴等、日々のコミュニケーションの中からみつけだし職員で共有し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添って戸外へ出かけることは難しいが出来る限りの支援はしている。散歩やカフェに行く等外出する機会を設けている。	法人合同の年2回の日帰り旅行、年1回のホーム旅行を実施している。天気にも左右されるが、日課の散歩や喫茶店、スーパーや、コンビニに出掛けている。気候の良い日には、駐車場で日光浴やおやつを食べることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は施設立替として対応している。希望の場合は家族に相談をし、代行にて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃や環境整備に努めている。また、芳香剤や季節感のある作品を飾るなどして不快のない空間づくりに努めている。	食堂兼リビングは日当たりも良く、窓からの眺めも良好で、近隣の果樹畑やホームの庭や畑を目にすることができる。壁面に、季節を感じる作品や利用者の作品が掲示されている。対面式の台所は見守りがしやすく、食後に洗濯物をたたむ利用者がある。	庭や畑があるが、重度化に伴って庭の花や畑のいちご造りが出来なくなっている。ボランティアなどを依頼するなどして、野菜や花壇の花など、季節を身近に感じる環境作りを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用していた馴染みの家具等、持ち込んでいただいている。	大きなクローゼットが設備されているが、扉を取り払って大きな仏壇を置いた居室、冷蔵庫や昔の筆筒などを持ち込んだ居室、整理整頓された清潔な居室など、思い思いの居心地よい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室出入口には表札をつけ目印にしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391400260		
法人名	医療法人 悠山会		
事業所名	ファミリア神の倉		
所在地	名古屋市区緑区赤松504		
自己評価作成日	令和 元年11月20日	評価結果市町村受理日	令和 2年 3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ラジオ体操や塗り絵等日課として取り組んでいます。外出レクも企画をたて出掛けています。家庭的な雰囲気の中安心、安全にすごしていただけるようにその方々に寄り添ったケアを進めています。グループホームのよさを活かした生活支援を行いご利用者のペースに合わせた声掛けをし、出来る限り残存機能も活かせるよう自立支援を心掛けています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2391400260-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 2年 1月11日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく今までと変わらない穏やかな暮らしをモットーに理念を事務所に掲示し共有し実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常では散歩やコンビニでの買い物の際挨拶程度。施設行事では案内を配り参加の呼びかけをしたり、地域ボラの交流も図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事や職場体験等でご利用者様に関わって頂くことで認知症に対する理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の第3水曜日に開催。事業所報告をしている。意見交換の場を設けて相談支援やアドバイスも頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	更新手続きの際に入居相談や助言を頂いたり、不明な点があればその都度相談するようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者の安全確保のため玄関施錠はおこなっている。また身体拘束マニュアルに基づき拘束のないケアをめざして勉強会を実施し理解周知に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング、入社時のオリエンテーションで意識向上に努めている。言葉遣いにも配慮し職員同士声掛けし注意しながら虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個別に学ぶ職員もいる。勉強会や会議の場を通して適宜話し合いの環境作りをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や不明な点に関して説明できるようにしている。ケアマネや事業所を通していつでも対応できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望に対し会議等で話し合い運営に反映させている。ブログや毎月の通信、来所の際など近々の情報を共有している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な個別面談や合同会議にて意見や提案を取り上げて反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に働き甲斐のある職場づくりを目指し、職員が気軽に相談等ができるように代表者や管理者との連携を図れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の勉強会や事業所の勉強会、個々の外部研修を受ける機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内勉強会や合同旅行への参加や他事業者の訪問等にて意見交換しサービスの質を向上させていけるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時はサマリーの情報をもとに声掛け傾聴し信頼管家をつくり、日々の行動や表情からも読み取り話しやすい雰囲気作りを心掛けながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所時や電話での相談援助、職員間情報を共有して家族との信頼関係に対応出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者やご家族の意向を聞くと共に、一つずつの行動を見極め対応している。必要に応じて、他サービス形態の事業所を提案する場合もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で役割をもっていただいたり、出来ることがあれば職員と一緒に作業をして頂いている。またレクや水分補給をともに行っている。ご利用者様と楽しんだり教わったりすることで、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の折、ご利用者様の状態報告を行っている。急用の際は直接連絡、相談させて頂いている。ご利用者、ご家族共に双方の事情を考慮した上でよりよい関係が築ける様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の方が気軽に来所していただけるよう、雰囲気作りを心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格上、合う合わないがあるが、なるべく一緒に居られるよう援助し関わり合いが保持できる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば対応している。、また、現状を報告して下さる家族もみえる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の思いや意向を把握しやすいよう、担当を付ける等の配慮をしている。言葉に表現できない方には表情やゼスチャーでコミュニケーションをとり把握に努めて対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時に、これまでの生活歴やサービスシートに至るまでの経緯等を伺い、フェイスシートにまとめ共有することで把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日申し送りや介護日誌で情報を共有して把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族に意見を聞き会議を活用して話し合いの場を設け介護計画を作成している。意見が言えるような環境づくりを心掛けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や経過記録にて情報共有に努めて、カンファレンス等で意見を出し合い見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の状態やご家族様の状況にあわせ、日々の健康管理や訪問診療等の法人内の各事業所の支援により、多機能的に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	状況に合わせて、地域行事に参加したり、ボランティアや消防訓練には消防署の協力を得ることで社会との繋がりがもてるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の訪問診療があり病状に応じ随時24時間対応している。希望される医療に受診の場合も紹介状を依頼し受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康管理や状態について看護師に伝え情報の共有・把握に努め、異常があった際は適切な受診や処置等依頼・相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療連携にて状況把握に努め、早期退院に向け病院関係者との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師より病状の説明をし、ご家族やご利用者の要望を聞き入れながら看取り同意を得ている。段階的に話し合いの場を設けて方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時の初期対応について、マニュアル作成し、医師、看護師、管理者へと連携をとり対応できるように、職員も日頃より、話し合いの場を設けて確認できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施しており、地域災害ボランティア様にも参加して頂いている。避難訓練の際評価・アドバイスをいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活リズムを大切にしており、日々の関わりのなかで個々に合わせたコミュニケーションを大切にしている。また、プライバシーの保護には十分配慮し、馴れ合いの中で生じる言葉遣いに注意して対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を伝えやすい雰囲気作りを心がけ、出来る限り自己決定が出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分を考慮して生活のリズムに合わせて支援している。困難な場合には、職員間で話し合い出来る限り希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し、意向もききながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いができることは職員と共に出来る範囲で行っていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内のキッチンの配送としており、栄養バランスやカロリー等配慮された献立である。個々の食事形態に配慮し、食事量や水分量の把握をしながら、支援している。低栄養のかたは医師、看護師と相談しながら提供を考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施。週1回訪問歯科での口腔内の保清をしていただいている。ケア方法も職員に指導して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努め、個々に合わせた排泄ケア用品を検討し対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の早期発見と対応をしている。自然排便が困難な場合は医師の指示のもと洗腸施行。また、活動を増やしたり、飲食物の提供もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分に配慮している。入浴剤を用いる等入浴を楽しめるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の体調を考慮し、昼夜のリズムが作れるよう支援している。また、定期的な静養もしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋が閲覧できるようにし、職員が把握できるようにしている。薬剤師からも指導を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で自然に取り組めるように支援している。得意分野や昔の生活歴等、日々のコミュニケーションの中からみつけたし職員で共有し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添って戸外へ出かけることは難しいが出来る限りの支援はしている。散歩やカフェに行く等外出する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は施設立替として対応している。希望の場合は家族に相談をし、代行にて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃や環境整備に努めている。また、芳香剤や季節感のある作品を飾るなどして不快のない空間づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用していた馴染みの家具等、持ち込んでいただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	居室出入口には表札をつけ目印にしている。		